



見沼の明日に向かって

見沼たんぼくらぶ 会長 新井 一裕



平成 25 年度を迎え、会員の皆様には益々ご健勝のことと拝察いたします。うれしいニュースがあります。このたび、当くらぶが「さいたま環境賞」を受賞し、過日、上田清司埼玉県知事から表彰状をいただきました。このことは、我が見沼たんぼくらぶの活動が広く県民から認められたことの証左であると思います。

当くらぶは、従来から農園づくり、清掃ボランティア、自然観察ハイキング、見沼塾などいろいろな活動を展開し、多くの市民の参加もいただいています。首都圏 30 キロ地域に残された見沼の優れた自然環境を後世に引き継いでいくことは、まことに重要なことです。「組織は力なり」と言いますが、私たちは、より多くの仲間を得て、見沼の明日に向かって実り多い活動を続けていきたいと思ひます。

今後とも、会員の皆様の力強いご支援とご協力をお願いいたします。

見沼たんぼくらぶ新年度総会行事

平成 25 年度総会

日時：4月21日（日）10時

会場：市民の森 見沼グリーンセンター2F

議事：平成24年度事業報告

平成24年度収支決算報告

平成25年度事業計画

平成25年度予算

第53回自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日時：4月21日（日）13時～16時

集合&解散地：市民の森正門

コース：市民の森……見沼代用水西縁……神明社……見沼公園のサトザクラ……防風林のクサイチゴ……芝川……鷲神社……大和田2丁目緑地……見沼1丁田圃の春の七草……市民の森

道程：約5km

皆さまの参加をお待ちしています

交通案内：JR宇都宮線土呂駅東口徒歩10分
(市民の森内に駐車場あり)

市民の森 見所紹介

《総会の前後に散策しませんか》

大宮市制35周年を記念して、1979年（昭和54年）10月に68,000㎡の埋立地に造成された風致公園で、樹林地と芝生広場が広がっています。

りすの家

豊かな自然の中で、シマリスを身近に見ることが出来ます。

展示温室

サボテンや洋ラン、亜熱帯や熱帯の植物が930㎡の温室に植栽され、居ながら南国の植物を楽しむことが出来ます。(小野 達二 記)

見沼たんぼくらのイベント

第91回見沼塾『見沼の自然—野鳥観察』（2012年12月9日）

大宮公園……芝川……大宮第三公園

執筆者 小峯 昇

青空の下、ボート池水面に映えた紅葉は見事なものでした。池の水質は改善されましたが、マコモが大きく広がりカモの数が減った印象を受けます。

ここではキンクロハジロとオナガガモが見られました。カイツブリの声も聞こえてきます。バンが横になったマコモの茎の上に器用に留まっています。以前はユリカモメもたくさんいたのですが、最近姿を見かけなくなりました。餌やり禁止の立て札がありますが、人に寄ってくるカモがいるというのは、そっと給餌している人がいる可能性もありますね。

サクラの木に小さな鳥が群れていました。



シジュウカラ



ヒガラ

シジュウカラとヒガラです。今年にはヒガラの当たり年でしょうか、いろいろところでよく見られます。ヒガラはシジュウカラよりもやや小柄で、夏に比較的高い山で囀っています。シジュウカラに似ているのですが、写真のように胸に黒いネクタイがありません。

小動物園にはシラコバトがいます。

シラコバトをモデルにしたコバトンは、ゆる

キャラとして知名度があがりましたが、肝心の「県の鳥」であるシラコバトが減っています。鳥インフルエンザ予防のため鶏舎が金網で覆われ、そこで餌を摂れなくなったのが原因と考えられています。

ここには、シラコバトに大変よく似たジュズカケバトも飼われています。こちらは愛玩用に古くから飼い慣らされてきたシラコバトの近縁種です。なお、手品で使われる白い鳩はジュズカケバトの白い変種の「ギンバト」で、これも一緒に飼われています。

芝川の境橋の下流ではコガモと、うたた寝中のヒドリガモが見られました。その少し先にアオサギが佇んでいます。人の気配に敏感で直ぐに飛び立ってしまうのですが、今日はじっとしています。



第三公園の池はヨシが刈り払われてすっきりしましたが、水面が以前に比べて減っています。ここでやっとカルガモに会えました。カモを区別するときの基本として、カルガモとコガモはしっかり押さえておきたい種です。この2つをきちんと覚えておけば、他のカモの手がかりになりますよ。

帰途、ひょうたん池付近の芝生で一生懸命草を食べているカモが2羽いました。今日の観察会の復習として、お配りしたカモ図鑑と見比べてもらいどのカモなのか考えてもらいました。

日頃の心がけが良かったのでしょうか、風もなく穏やかな冬の日を楽しく過ごすことができました。

観察された鳥は、声を聞いただけのものを含め 29 種でした。参加者は18名(女性10名・男性8名)です。

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

さいたま市みどり愛護会

—雑木林体験・保全作業&シイタケの種ごま打ち—

2月23日(土)に「雑木林体験」が見沼区の大和田緑地公園で開催されました。天候は晴れで風もあまり無くまずまずの作業日和となりました。参加者はこの事業に応募された方・さいたま市みどり愛護会会員によります。参加人員は80名にも達し、うち子供は8名でした。

当会主催の雑木林体験も同公園中部雑木林に於いて平成24年12月16日(日)に19名の参加者により実施されています。

今回の作業内容は雑木林の保全作業(北部雑木林の落ち葉掻き・ドングリの里親から提供されたクヌギ・コナラの苗木の仮植え)及びシイタケの種ごま打ち作業であります。9時から多目的広場での主催者の挨拶及び作業手順の説明の後、まず、雑木林保全作業から、2つの班に分かれ作業開始です。大部分は落ち葉掻き作業への参加です。北部雑木林は8年前に雑木林再生が行われ、現在は落葉樹の実生木・植栽木が生長中であり、冬期は日光が林床まで達し明るい林です。落ち葉は林床

を覆い尽くしていますが、熊手により寄せ集め、それらを集積所(柵・窪地)に運搬



する作業を夫々が分担して手順よく進捗します。集積所での落ち葉の踏み固めは子供達にとっては格好の持ち場になりました。

苗木の仮植えは10名により多目的広場の所定場所に48本ほど植付けました。作業は早めに終了し、落ち葉掻き作業に合流です。

上記の作業が終了し、シイタケの種ごま打ち作業の準備の出来た多目的広場に集合して、作業の手順及びシイタケ栽培の要領の説明があり作業開始です。コナラの榎木(ほたぎ)の運搬・ドリルでの種ごま打ち込み用の穴開け・木槌による種ごま打ちが連携作業で進められます。種ごま打ちは子供達の作業分野でもありました。完成した榎木は参加者に配られ持ち帰り頂きました。成果が期待されます。(若野 忠男記)

第六回 水彩画展の開催

見沼スケッチ会 第6回水彩画展は3月5日～3月10日の期間、氷川の杜文化館で開催された。

展示室には78点の作品が所狭しとばかりに行儀よくパネルに並べられているが、どの作品も「力作」ばかりで、我々の目を楽しませてくれる。

この会は2007年に創設された会で、その名の通り、「見沼たんぼ」や「見沼代用水」等に見られる風景や建造物を主なモチーフにして水彩画を勉強されている会である。



東京都の千代田区にも匹敵するほどの面積を有する広大な見沼たんぼには、春夏秋冬を通して、何処を歩いても自然が一杯に溢れている所である。作品の一つ一つを拝見して行くと、こうした自然が克明に描き出されている。田畑の姿があり、水の流れがあり、木々の姿があり・・・と、まるで作品と共に見沼たんぼを散策しているような錯覚に陥ってしまう。

見沼たんぼは、当初は「沼」であったが、江戸時代に八丁堤を構築し「溜池」として利用するようになり、更には井澤弥惣兵衛為永が八代将軍・吉宗の命によって新田開発したものである。今では貴重な緑地として残されてはいるものの、国の減反政策や農業の後継者不足などによって、「耕作放棄地」が目立つようになって来た。

見沼スケッチ会は、こうして変りつつある見沼たんぼの風景や建造物等に亘る遺産を、「スケッチ画」として描き残し、後世に伝えて行きたいと考えているそうである。今回の展覧会で6回目というが、こうした面で「関係する皆様に協力して行きたい」と、この会を主宰する八木一郎画伯は説明して下さった。(召田 紀雄記)

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎

常泉寺 鐘楼（さいたま市見沼区染谷）

染谷新道の北に位置する曹洞宗の古刹。参道には小規模ながらも整然とした枯山水の庭園が設けられており、本堂正面には江戸無血開城に尽力した山岡鉄舟（1836-1888）直筆の山額が掲げられている。境内・本堂の近くに「広島・長崎の火」が、ご住職や有志の方々により灯し続けられている。この火は広島に原爆が投下された時、福岡県の山本さんが親族を探しあぐねた末に、親族の書庫にくすぶっていた火を形見として持ち帰られたもの。



氷川女体神社 磐船祭祭祀遺跡（さいたま市緑区宮本）

氷川女体神社は、高鼻の大宮氷川神社（男体）・見沼区中川の中山神社（王子社）とともに、いずれも見沼に接する高台に建てられており、氷川三社の名で一体とされてきた。氷川女体神社の最も大事な神事は「御船祭」。隔年の9月8日、神社から神輿を乗せた御座船が見沼を南下し、神酒を沼の主にお供えをする神事で、江戸時代の見沼が干拓されるまで続いた。

その後祭の形を改め、鳥居下の突端新田の中に山を築き、周りを池にして山上に土壇の斎場を設け、名前も「磐船祭」と変化。約140年後の江戸時代末期に廃止されたが、いま社頭に残る柄鏡形の池とその中に島を持つ遺跡がこの斎場跡で、市の史跡に指定されている。



川口自然公園（川口市 差間）

見沼通船堀の北に立地。見沼代用水東縁の流れに沿い、森に囲まれた緑豊かな公園。見沼低地の自然を残した公園で、雑木林や池・湿地などがあり、絶滅が心配されているメダカやカワセミも見られる。新緑が目にも沁みる季節、池では多くの釣り人が糸を垂れており、湿地帯に敷かれた木道では、昆虫探しの子供たちの賑やかな声が聞こえてきた、穏やかな一日でした。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

初夏の木道

作者 内藤 高

見沼自然公園の南端にある木道広場。初夏の時期、草も木も新緑に輝きミドリ一色です。ミドリの色の違いを懸命に追いかけてきましたが上手くいきません。ミドリが好きですが、ミドリが難しい事に改めて気付かされた一枚です。でも、こんな素晴らしい場所が身近にあるなんて、幸せです。



見沼たんぼ探訪記

第1回さいたまマーチ～見沼ツデーウオーク～ (2012/11/24～25)

さいたま新都心から見沼たんぼを巡るウォーキングイベント「さいたまマーチ～見沼ツデーウオーク～」(さいたまスポーツコミッション・さいたま観光国際協会・埼玉県ウォーキング協会、朝日新聞社などが主催、さいたまマーチ実行委員会が主管)が初開催されました。

見沼たんぼくらぶも実行委員会の構成メンバーとして企画段階から携わるとともに、大会当日はチェックポイント&給水所の運営にも協力しました。



大会初日の24日(土)は、見沼代用水や芝川沿いを歩きながら、浦和博物館、竜神伝説が語り継がれる国昌寺、見沼自然公園など周辺スポットをめぐる、まさに見沼たんぼの魅力満喫出来るルート、2日目の25日(日)は、氷川神社から大宮公園、さらに人形のまち岩槻まで足を延ばす、さいたま市の歴史と文化をめぐるルートで、両日とも30km、20km、10km、5kmの各4コースを設定し、秋空の下、2日間のべ4,625名のウォーカーが見沼たんぼでのウォーキングを楽しみました。

また、出発・ゴール地であるさいたま新都心駅東口の高沼遊歩道では、さいたまのご当地グルメやスイーツ、物産品を集めた食の祭典「さいたまるしえ」も同時開催され、ウォーキングを終えたウォーカーたちが本市自慢のグルメを堪能していました。

次回は平成26年3月29日(土)・30日(日)に開催予定です! (根岸 稔記)

芝川第一調節池の自然に触れる

芝川第1調節池の建設は芝川河川改修計画の中で進められており、洪水調節容量約1100万 m^3 のうち550万 m^3 を確保するために進められている事業である。丁度、芝川が調節池の真ん中を流れ、左岸側と右岸側に分れている。前者側の部分の工事は完成しており390万 m^3 、後者側の部分は現在建設中で160万 m^3 の容量を有するという。

芝川の川岸に近付くと対岸の遙か先では、工事の真っ最中の様子が伺え、重機や車両が忙しそうに残土を運んでいる。時たまブルドーザーの排出する紫煙がピューッと冬の空に舞い上がり、力強いエンジン音が聞こえて来る。

耳を澄ますと生い茂った葦の中から「チッチ、チッチ・・」

と、鳥の鳴き声が聞こえる。姿は見せてくれないがキット可愛い鳥



に違いあるまい。空にはアオサギであろうか、南の空から北に向かって悠然と飛んで行く。芝川には4,5羽の鴨が冬の陽を浴びながら泳いでいる。寒い時期だが、見沼たんぼの鳥たちは実に元気だ。

しばらく歩いていると偶然にも、「白鳥があちらで泳いでいます」と教えてくれるのだった。毎日この調節池をウォーキングしている方だと言っていた。双眼鏡でその方向を覗くと、コハクチョウが2羽、のんびりと泳いでいるではないか。まさかこの眼で、自然の中の白鳥を見られるなんて信じられない思いで一杯になってしまった。

その人の説明では、現在7羽の白鳥がこの調節池に飛来しているそうである。ハヤブサやチュウヒ、オオタカ等の猛禽類も、この調節池をすみ家にしてののだとも教えてくれた。第1調節池がこれほどまでも自然に富んでいるとはこれまで知らなかったが、実に素晴らしい事である。

(召田 紀雄記)

見沼たんぼの仲間たちNo.25

大和田緑地公園特別緑地保全地区

活動団体 さいたま市みどり愛護会
NPO法人自然観察さいたまフレンド

大和田緑地公園は、見沼区大和田町1丁目西端、大宮体育館の南側に広がる約2km²の斜面林です。雑木林と屋敷林と谷地があります。

1991年（平成3年）から「自然観察さいたまフレンド」が自然観察と植生調査を始め、1996年（平成8年）から「みどり愛護会」が保全作業を始めました。

大宮市の頃から、漸次買収をしていただき、今はほぼ全域が公有地化しました。私たちのボランティア活動によって、見沼たんぼ最大級の斜面林が美しい自然景観を復元し、2006年（平成18年）、さいたま市の特別緑地保全地区第1号に指定されました。

★ 2004年（平成16年）さいたま市景観協力賞 □ 2012年（平成24年）埼玉県クールスポット百選に選定

当地は、さいたま市みどり愛護会大和田・大谷支部が下草刈り・落ち葉かき・枝打ちなど通常の保全作業を行っていますが、それに加えて四大大事業を実施しています。

雑木林再生事業

コナラ・クヌギの樹齢が60年以上になったことで、若返りを図る目的で、北部エリアの高木を皆伐して実生から育てたコナラ・クヌギの移植作業を行い、その成長のために不要な樹木や野草を除去することで、若い雑木林が育っています。（みどり愛護会大和田・大谷支部）

植生調査・希少植物保護事業

1995年まで放置された森は、暗い自然林に遷移をはじめ下草が育たない状況にありましたが、私たちの保全作業によって、林床に木漏れ日がさす程度の明るさとなり、希少植物が徐々に自然復元しました。

絶滅危惧種では、アマナ・ウラシマソウ・キンラン・ギンラン・シュンラン・ヤマブキソウ・ワニグチソウの7種です。

見沼たんぼ最大級の斜面林・谷地

私たちの言うさいたま市の注目種は、アキカラマツ・カシワバハグマ・キチジョウソウ・チゴユリ・ジュウニヒトエ・ツリガネニンジン・ヤマユリなどです。

（NPO法人自然観察さいたまフレンド）

谷地再生事業

当地の凹地は、かつては豊かな湧水の出る沼沢でしたが、乾燥化が進み荒地となりました。そこで、谷地を再生し、見沼に自生・生息する水生・湿性植物、魚介類、水生昆虫を保全するための溜め池・沼沢・細流を造成する作業を進めています。



絶滅危惧種は、植物のタコノアシ・チョウジソウ、鳥類の

カワセミ、魚類のメダカが健在です。

アズマヒキガエルの安定した産卵地ともなっています。

また、水環境の保全を図る目的で、古代米を無肥料で栽培しています。

（みどり愛護会各支部有志）

環境教育体験学習

私たちの指導で、地元小学校・中学校の総合学習、芝浦工業大学システム理工学部の環境調査選択授業を実施しています。

（NPO法人自然観察さいたまフレンド）

（当地活動2団体代表 小野 達二記）

見沼たんぼの農家さんのお話

黒白洋蘭園を訪ねて

片柳コミュニティセンターにほど近い一画にとんがり屋根の大きなビニールハウスが並んでいます。ここが、数々のコンクールで受賞、従業員70名で年間30万株の胡蝶蘭を栽培・出荷しており、皇太子殿下も行啓された黒白秀之さんの蘭園です。

黒白さんと蘭との出会いはまったくの偶然だったそうです。元々農家でしたが小学校6年生の時に父を失います。一人で一家の農業を担っていた母に早く楽をさせたいと、高校を出たら勤めるつもりでしたが、たまたま進学した鶴ヶ島の農業大学校で、棚の下に転がっていた蘭を拾って鉢に植えておいたら花が咲き、それで蘭をやろうかと思ったそうです。

当時は高嶺の花だった胡蝶蘭も、バイオテクノロジーの発達によるクローン技術の進歩で、10年ほど前からぐんと効率よく栽培できるようになって、コストも下がりました。とはいってもクローンはあくまでコピーを作るためだけにしか利用できません。新しい品種は、やはり昔ながらの^{みしろう}実生による交配から生み出されます。お訪ねした部屋には2~3センチほどに芽吹いた胡蝶蘭の苗がいくつも入った小さなガラス壺が置いてありましたが、種からここまで育つのに2年かかり、更に商品になるまでに育てるにはあと2年半、計4年半の時間がかかるそうです。

胡蝶蘭は台湾南部から東南アジアにかけて自生

していますが、黒白さんの所では自生環境に近い台湾とリレー栽培を行うことで、高品質を保



(ハウスの中の黒白秀之さん)

ちながらコストダウンを実現しています。培養壺から出して花芽が出てくる前までの時期を台湾

で過ごし、そこから花が咲くまでをここのハウスで過ごします。見学させてもらったハウスの中は満開の胡蝶蘭でいっぱい！大きなハウスの中でみんな同じ方向に、お日様の光に向かって顔を上げています。

胡蝶蘭というと普段の生活で楽しむにはちょっと敷居が高いかな、と思ってしまいますが、敷地

内にある直売店「らんや」ではガラス張りの明るい店内に、贈答用の大きなものから家庭で手軽に楽しめるこじんまりしたものまで、さまざまな胡蝶蘭が用意されていて、見ているだけで心が弾みます。



(桜の古木が印象的な「らんや」)

す。また、手頃な参加費でコサージュ作りなどのイベントが行なわれており、来園者は年間1000人を越えます。

黒白さんは、農業者がどんどんと高齢化していく現在、若い耕作者を育てる工夫が緊急に必要だと感じています。そのためにはまず、いろいろな農業者が様々な取り組みを行うことができる拠点を作ることが必要ではないか、また、見沼には130万の都市住民を抱えた「人を呼べる場所」としての利点がある、と。こうした観点から、農業者だけではなく地域住民や行政が協力して地域全体として活性化していく活動にも積極的に取り組まれています。

ずっと女手ひとつでツツジなどの花木を栽培して畑を守ってきたお母さん。「おふくろと一緒にやれる仕事は何か、と考えたらハウスでの花栽培だった」という一言が心に残りました。

(取材：島田由美子・高橋いずみ)

黒白洋蘭園・「らんや」

さいたま市見沼区染谷1-188 TEL. 048-683-6727

見沼たんぼくらのイベント案内

見沼ふれあい農園づくり一里芋・八つ頭

■会員限定◀福祉施設にも寄贈します。▶

- ① 5月 1日 (水) 種芋植付
- ② 5月 27日 (月) 除草
- ③ 6月 11日 (火) 除草
- ④ 6月 25日 (火) 除草
- ⑤ 7月 16日 (火) 除草
- ⑦ 8月 5日 (月) 除草

* 毎回8時30分～10時30分 雨天順延
(その後、11月上旬収穫までの日程は未定)
農園：1号地(緑区大字見沼610及び613)
交通：JR 東浦和駅からバス③浦和東高校行き
7：41発「宮本2丁目」下車、徒歩10分
申込み：4月25日までに葉書・FAX・メール・電話などで見沼たんぼくらぶ事務局へ

第54回自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日時：5月25日(土) 9時30分～12時頃
集合：見沼自然公園管理棟前
コース：見沼自然公園⇒深井家長屋門⇒さぎやま記念公園⇒加田屋新田⇒旧坂東家住宅
申込み：当日、集合地で9時から受付
交通：大宮駅東口からバス⑦浦和学園高校・浦和美園駅・さいたま東営業所各行き「締切橋」下車、南側(約20分乗車)

第92回見沼塾『映像で見る見沼の自然』

日時：6月 8日(土) 10時～12時
会場：浦和コミュニティセンター第13集会室
申込み：当日、会場で9時30分から受付
講師：佐々木明男 芝浦工業大学名誉教授
交通：JR 浦和駅東口浦和パルコ10F

第93回見沼塾『見沼代用水の歴史と現状』

日時：6月18日(火) 14時～16時
会場：市民の森 見沼グリーンセンター2F
講師：小川 一彦 見沼代用水土地改良区室長
申込み：当日、会場で13時30分から受付
交通：JR 宇都宮線土呂駅東口から徒歩10分

会員の主宰するイベント情報

自然観察ハイキング『見沼たんぼの春の七草&斜面林のキンラン・ギンラン』

日時：5月6日(月・振替休日) 9～12時
集合：東武野田線大宮公園駅前
主催：NPO 法人自然観察さいたまフレンド
コース：大宮公園駅⇒見沼1丁目田圃⇒大和田緑地公園斜面林⇒大宮第二公園⇒大宮公園
申込み：当日、集合地で8時30分から受付
参加費：¥500 (中学生以下は無料)

見沼たんぼくらは、会員のみなさまの作品をみぬま通信で順番に紹介する誌上展覧会を開催します。

絵画や写真、クラフト詩や俳句など、作品を会員の皆様から募集いたしますので、誌上に掲載する作品の写真または詩文と作品の紹介文を同封の上、本誌8ページに掲載の発行所まで郵送してください(写真は返却いたしません)。

見沼たんぼに関わる作品を優先して紹介させていただきますが、それ以外の作品でも紹介いたします。会員の皆様の多くのご応募をお待ちしております。なお、紙面の都合上、すべての作品を紹介できない場合もございますが、ご了承を

「見沼たんぼくらは」へのお誘い

「見沼たんぼくらは」をお友達に紹介して下さい!
「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう!
個人・団体・法人とも1口¥1000円です。

みぬま通信第54号

発行日 平成25年4月1日
発行所 見沼たんぼくらは
〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方
TEL・FAX (048) 683-1764
E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp
URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2012 Minuma Tuusin